

○ JA十勝清水町では、町内の乳牛ふんと採卵鶏ふん、天然木質チップを混合し、十分に腐熟化させた堆肥をペレット化して「しみず有機」という名称で製造・販売。

■国内資源の種類

■肥料の種類・肥料名称

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

- ・牛ふん・鶏ふん

・木質チップ（水分調整）
- ・種類：ペレット堆肥

・肥料名：しみず有機

■作物

■主成分の含有量（乾物当たり）（%）、特徴等

・野菜（にんにく、アスパラガス等）

・小豆

・ばれいしょ

・牧草 など

N	P	K	C/N比	水分
2.2	5.0	3.0	10	22.7

・完熟堆肥なので、播種や定植時にも安心して施用可能。

・肥料成分が緩やかに溶出するため、緩効的、持続的、累積効果が期待できる。

・ペレット状なので、輸送に優れ、ブロードキャスターなどの農業機械で施用可能。

取組の経緯

・地域のバイオマス資源を有効利用することによる循環型農業、有機的農業の推進、および産業廃棄物削減による環境汚染問題の軽減を目的に、平成 21年からJA十勝清水町家畜排せつ物堆肥化施設を稼働し、清水町内の畜産農家から発生した牛ふんと鶏ふん（令和 4 年度実績：約3,400t）を主原料としたペレット堆肥「しみず有機」の製造を開始した。

取組の内容

・地元の耕種農家が「しみず有機」を利用した“元気な土で作物を育てる”取り組みを「とれたんと」という名称のブランドで付加価値販売している。

・「しみず有機」は農業者から家庭用向けまで500kgフレコンバッグ、20kg袋、6kg袋、500gの小袋を用意し、500gの小袋はネットでの販売も行っている。

成果（見込み）

・町内および一部町外へ年間約870 t 程度の販売実績がある（令和 4 年度）。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

・施設の稼働から15年が経過し、製造設備の老朽化が進んでおり、製造設備の改修や更新、製造工程の見直しにより生産量増を目指している。

・帯広畜産大学や農研機構北海道農業研究センター（芽室研究拠点）と連携し、「しみず有機」の効果的な利用方法や作物の品質・生産量の向上に向けた共同研究を実施している。

「とれたんと」のロゴマーク ※「とれたと」と「たんと（たくさんの意）」を組み合わせた十勝清水町農業協同組合の登録商標

とれたんと